

Double counting of emissions reductions

Counting the same emissions reduction twice:
e.g. both by the host country and the buyer want to count the emissions reductions in their inventories

In both the Cancun and the Durban agreements, the necessity of avoiding double counting is mentioned but not clearly defined.

ボン会議報告会

市場メカニズム 議論の結果

WWFジャパン
気候変動・エネルギーグループ
リーダー 山岸 尚之

2012年6月14日(木)
日比谷図書文化館

1

本日の概要

1. ダーバン会議でのメカニズム議論のおさらい
2. ボン会議での議論
 - ワークショップ
 - 交渉の経過
3. 今後の課題





1. ダーバン会議

「新しい市場メカニズム」と「様々な手法のフレームワーク」



なぜ「新しい」メカニズムを議論する必要があるのか

- CDMの抱える様々な批判・課題
 - 持続可能性、地位的な偏在、追加性審査、プロジェクトタイプ等
- 「民間」が係る仕組みとしての期待
 - 必要な削減規模
 - 必要な資金の流れの規模
- 2013年以降のメカニズム乱立時代の到来？
 - 国際、国内、地域それぞれのレベルで色々な「メカニズム」が構想されている



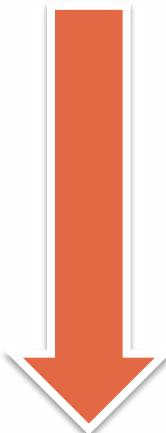
ダーバン会議での2つの決定

新しい市場メカニズム
(New Market-Based Mechanism)

様々な手法のフレームワーク
(Framework for Various Approaches)

トップ・ダウン

COP(もしくはCOP/MOP)



国連レベルで
ルール形成

メカニズムの実施

ボトム・アップ

COP(もしくはCOP/MOP)



フレームワーク

メカニズム案の提示
(日本のBOCM等)

メカニズムの実施と形成



国連交渉の中で提案されている「新市場メカニズム」案

■ セクトラル・クレディティング・メカニズム(SCM)

- EUやNZが主提案者。
- セクター(部門)全体を対象にするという部分以外はCDMに似ている。
- 排出量削減クレジットの発行は事後(ex-post)。
- いわゆるノールーズ目標とセットで提案されることが多い。

■ セクトラル・トレーディング(ST)

- EUやNZが提案者。
- あるセクター(部門)を対象にするという部分以外は現状の国内の排出量取引制度と似ている。
- 最初に削減目標(cap)を設定し、排出枠が事前(ex-ante)に発行される。
- EU ETSのように、部門内の企業に排出枠を配分するかしないかは選択。

■ NAMAクレディティング

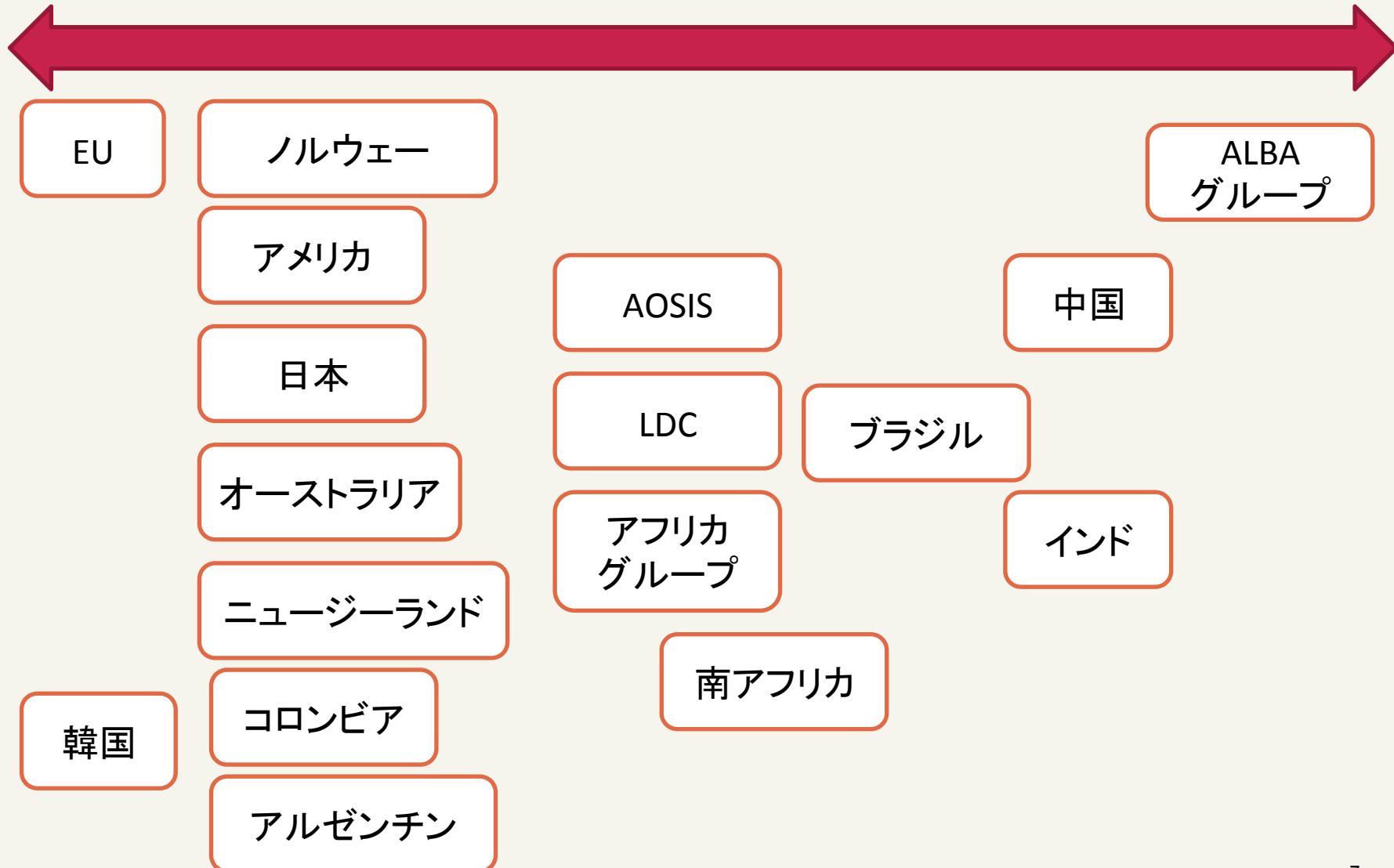
- 韓国が提案。
- Nationally Appropriate Mitigation Actions にクレジットを付与。



新しい市場メカニズムに関する各国の立場

推進派

反対派





2. ボン会議での議論

ワークショップの開催と入り口の議論

ワークショップや交渉で浮上してきた争点

■ 議論の順番・優先順位

- 「政治的な課題」と「技術的な課題」、どちらを先に議論するべきか？「原則」のようなものを先に議論するべきか？

■ NMBMは、セクトラルか？プロジェクト・ベースか？

- EU等はセクトラルを推し、中国はプロジェクト・ベースを主張

■ 「非市場型メカニズム」の具体的な議論は？

- ボリビアは、非市場型メカニズムの議論の優先を強く主張
- エクアドルは、Net Avoided Emissions メカニズムを提案

■ ガバナンスは中央集権的か？分散型か？

決まったこと

■ 更なる意見提出

- 7月6日まで

■ テクニカル・ペーパー

- 事務局が作る課題整理のペーパー

■ 更なるワークショップ開催？





議論を難しくしている3つの要因

■ 削減目標の低さ

- ・ このままであれば、そもそも必要ない？

■ メカニズムに何を期待しているのか？

- ・ 排出量削減？ でも、現状の本質は「オフセット」
- ・ (自国への)民間投資の推進？ でも、セクトラルだと政府関与は大で難しい？

■ 他の部分で進行中の議論との不明瞭な関係

- ・ NAMAの中での位置づけに対する理解の不一致



3. ドーハへ向けて

何が課題か

ドーハに向けての交渉を見る視点

- 2013年以降、多種多様なメカニズムが乱立する可能性
 - ✓ 国連による整合性や環境十全性の確保
 - ✓ フレームワークにおける共通原則・ルールの策定が必要
- 「基準」の具体化
 - ✓ 「努力の二重カウントの回避」
 - ✓ 「GHGのネットでの減少および／もしくは回避の達成」
- 新しい市場メカニズムのルール設定は慎重に
 - ✓ 供給過多の現状…本当に必要なのか？



ご静聴ありがとうございました



参考資料

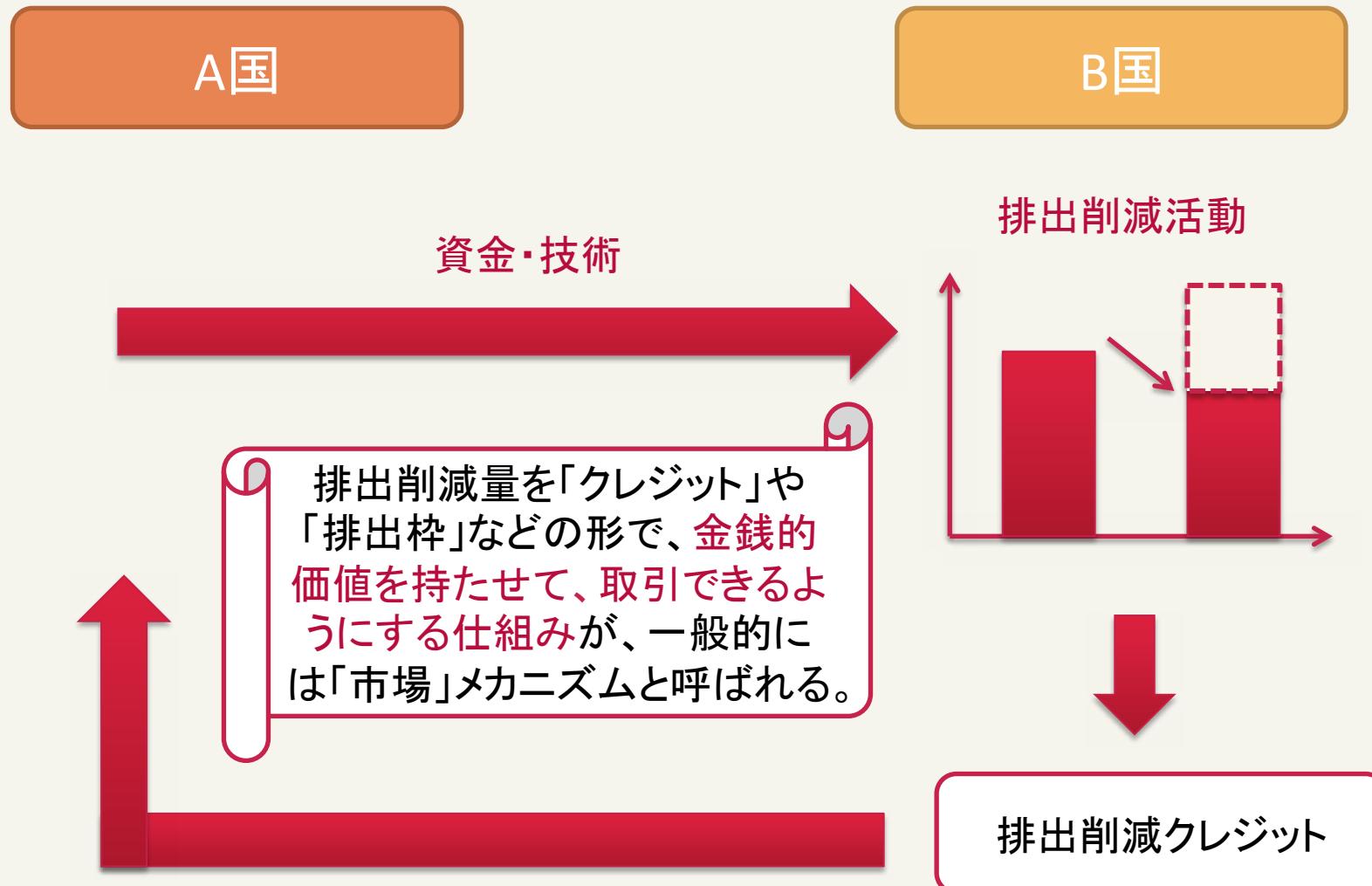
背景となる議論や数字



参考になる文書・ウェブサイト

- 会議に先立ち、各国が「様々な手法」について提出した意見
FCCC/AWGLCA/2012/MISC.4, Add.1
- 会議に先立ち、各国が「新しい市場メカニズム」について提出した意見
FCCC/AWGLCA/2012/MISC.6, Add.1
- 「様々な手法」に関するワークショップ
http://unfccc.int/meetings/bonn_may_2012/workshop/6661.php
- 「新しい市場メカニズム」に関するワークショップ
http://unfccc.int/meetings/bonn_may_2012/workshop/6661.php
- 今回の会議の議論経過に関する「口頭報告」
http://unfccc.int/files/bodies/awg-lca/application/pdf/20120524_va.pdf

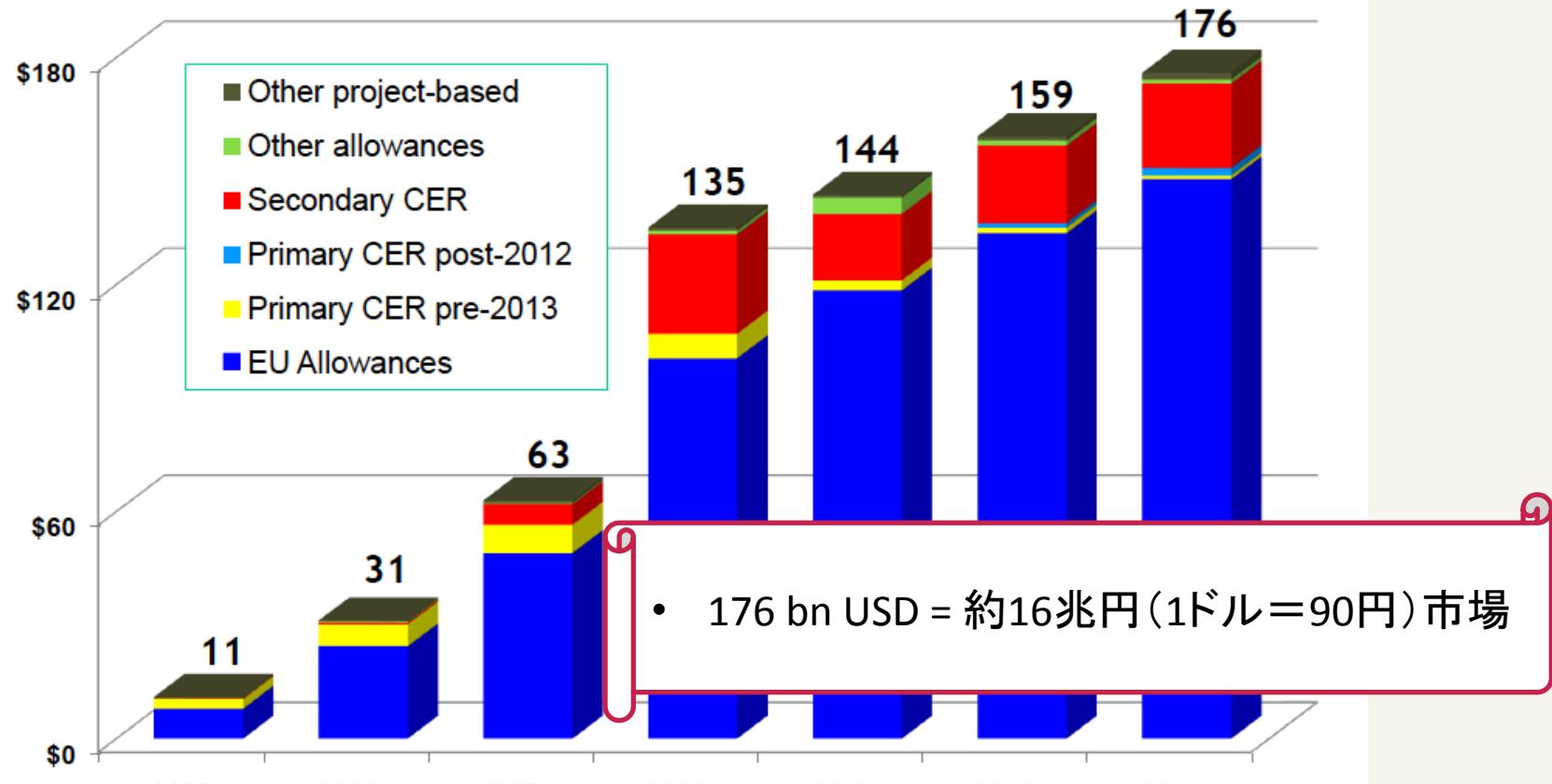
“市場”メカニズムのイメージ



グローバル・カーボンマーケットの成長

Steady increase of global market value

(in Billion US\$)



(出所) World Bank (2012) State and Trends of the Carbon Market 2012 (Presentation), from <http://go.worldbank.org/FVAX4G7AQ0>



ダーバン会議での3つの論点に関する結果

■ 第2約束期間非参加国はCDMを利用できるのか？

- 結論は得られず

■ 新しい市場メカニズムを設立するのか？

- 「設立する」→「定義する」という表現に
- 事実上、紙の上では設立。詳細ルールは今後

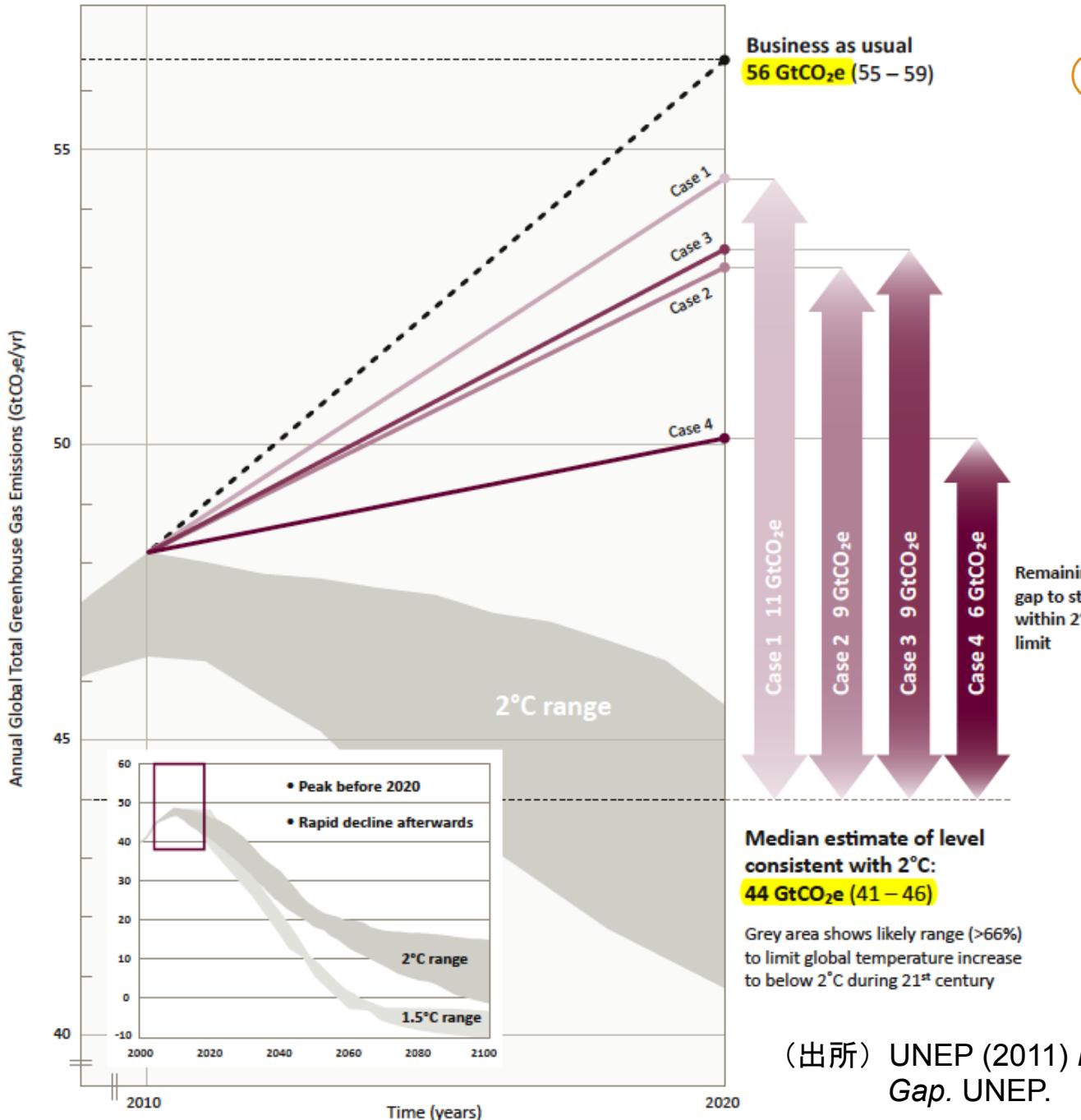
■ 独自メカニズム提案の「フレームワーク」を設立するのか？

- 「フレームワーク」を検討する作業計画
- どこまで国連が定める基準が適用されるか曖昧に

※いわゆる「原発CDM」は今回議論が見送られていた



The emissions gap



BAU
(なりゆきケース)

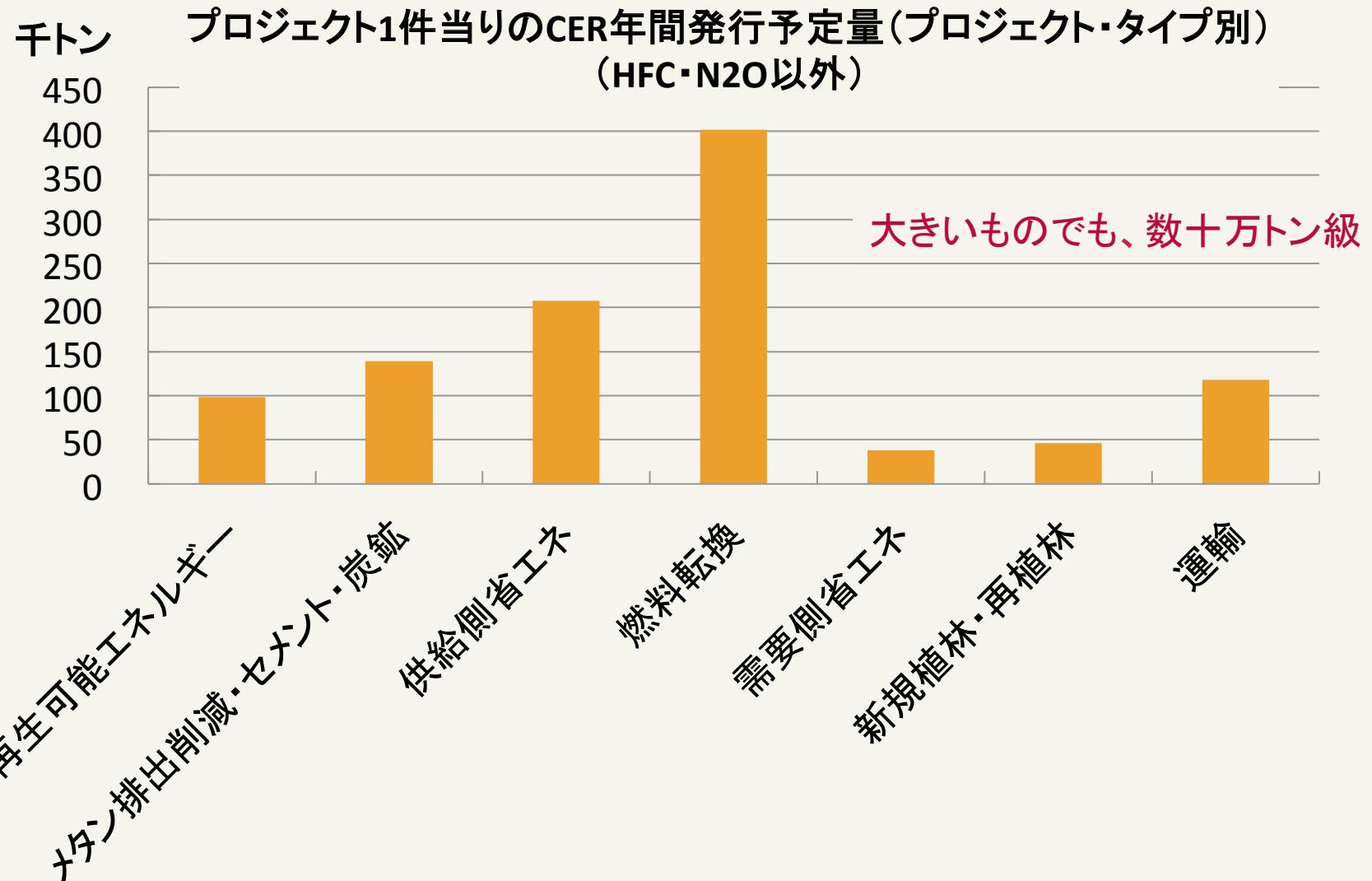
56Gt

BAUと
必要量
の差
12Gt
(120億t)

2度未満
44Gt

(出所) UNEP (2011) *Bridging the Emission Gap*. UNEP.

CDMプロジェクトの「削減量」の規模感



(出所) Fenhann, J. (UNEP Risø Centre) (2012). CDM Pipeline. Retrieved January 16th, 2011, from <http://cdmpipeline.org/publications/CDMpipeline.xlsx>



必要な「資金」の規模感

国連気候変動枠組条約事務局の2007年の試算

2030年の時点で必要な追加的な投資・資金の流れ
=2,000～2,100億(USドル) うち46%が途上国で必要

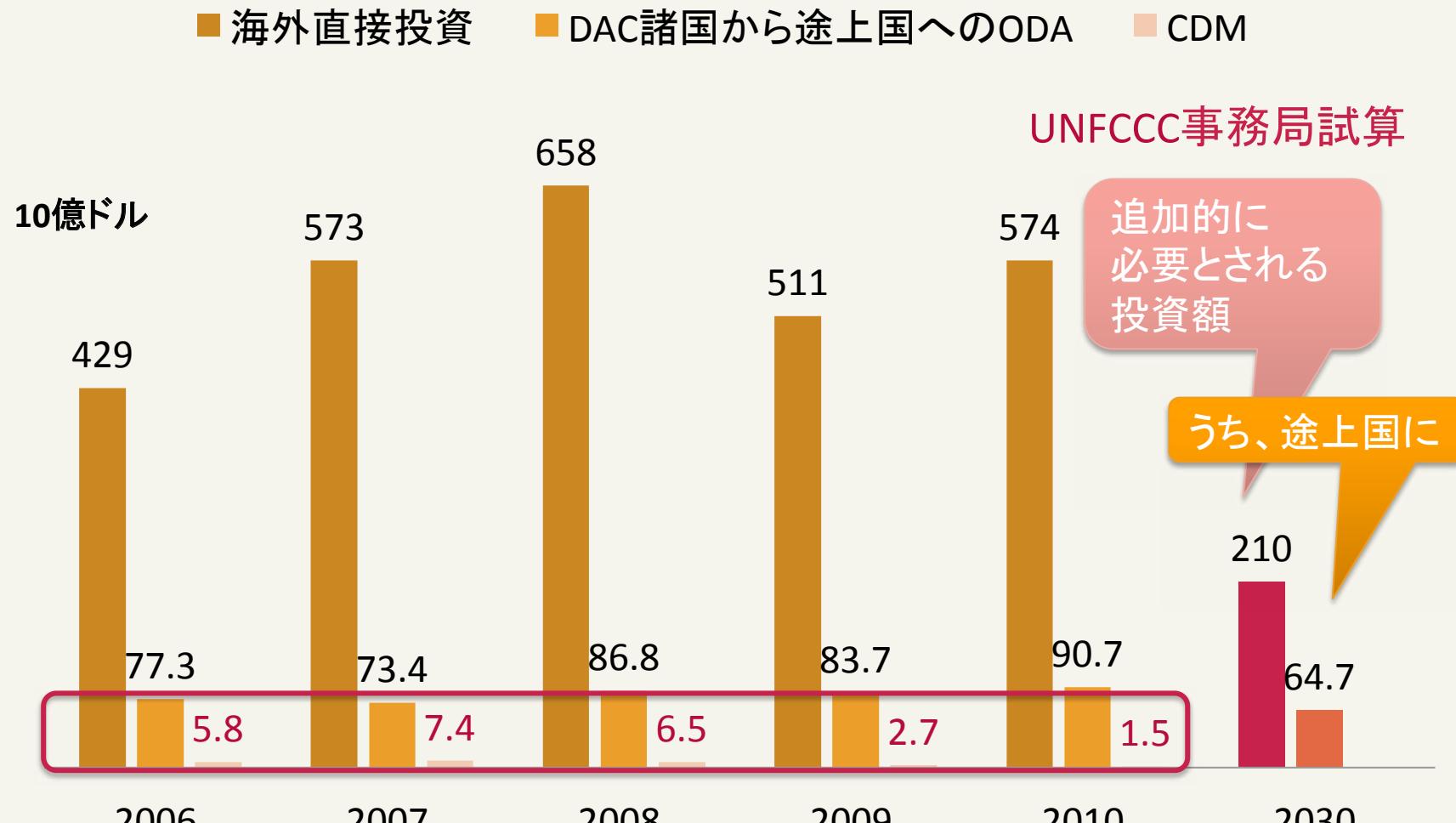
カンケン合意

98. 先進国は、意味のある緩和のための行動及び実施の透明性の文脈において、開発途上国のニーズに対応するため、
2020年までに年間1,000億米ドルを共同で調達するという目標にコミットすることを認識する。

(出所)UNFCCC (2007) Investment and Financial Flows to Address Climate Change. UNFCCC. and
UNFCCC (2008) Investment and Financial Flows to Address Climate Change: An update. ／外務省ウェブサイト http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/kiko/cop15_decision.html



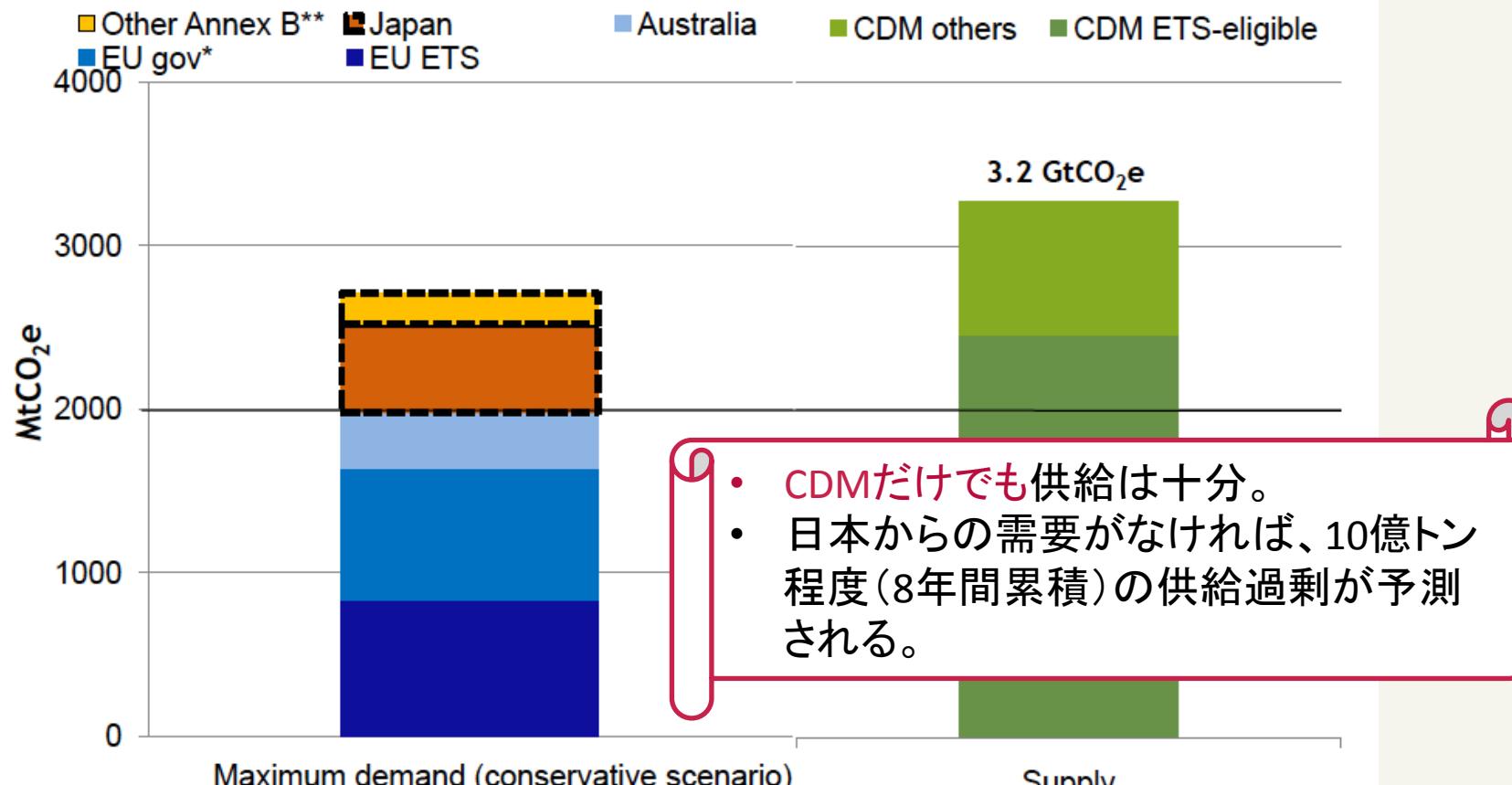
CDMプロジェクトの「資金の流れ」の規模感



(出所) 海外直接投資:UNCTAD Stat (<http://unctadstat.unctad.org/>) ／ ODA:OECD QWIDS (<http://stats.oecd.org/qwids/>) ※通貨は共に名目

予想される供給過剰

Market projections indicate constrained demand over 2013-20



*Including Iceland, Liechtenstein, and Norway

** Including New Zealand, North America, and Switzerland

(出所) World Bank (2012) State and Trends of the Carbon Market 2012 (Presentation), from <http://go.worldbank.org/FVAX4G7AQ0>